

麦作技術情報 No. 4

令和4年5月20日
鳥取県産米改良協会

- 令和4年産麦の収穫予想は、平年に比べて3日程度早い。
- 向こう1か月の天候は、期間の前半は、天気は数日の周期で変わるが、平年に比べ晴れの日が少なく、期間の後半は、平年に比べ曇りや雨の日が多いと予想されています。
- 播種が早いほ場から順次収穫を行うなど、適期収穫を励行しましょう。

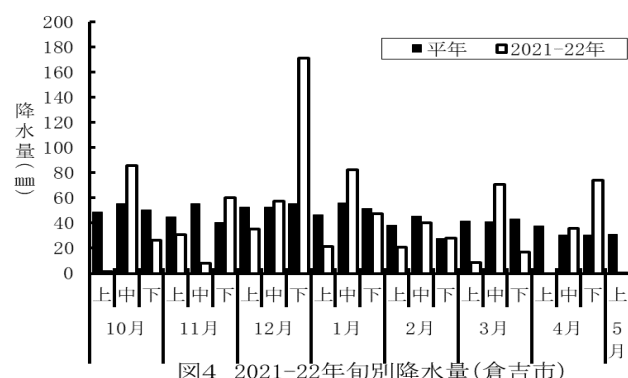
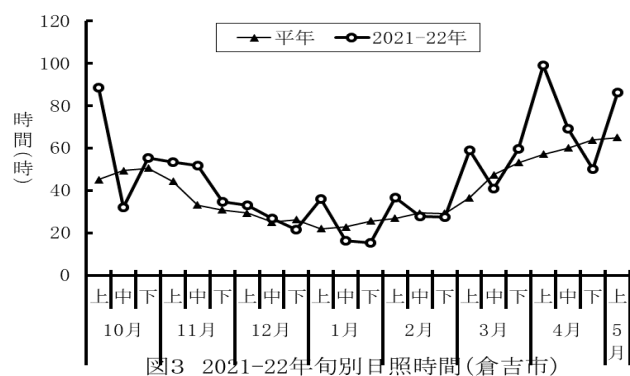
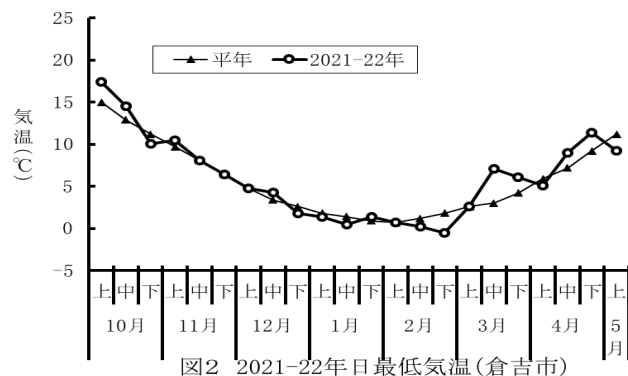
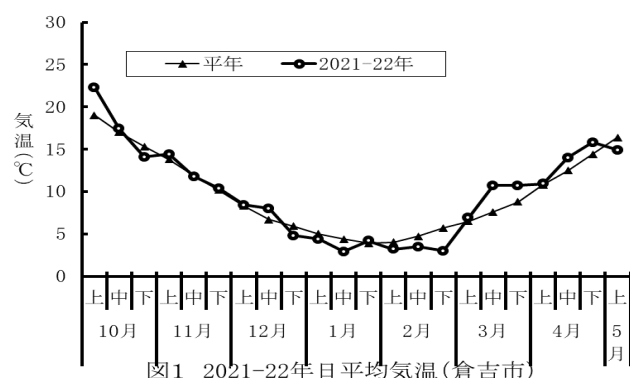
○農作業安全を徹底しましょう

- ・ほ場や農業機械の安全点検、熱中症の防止を図りましょう。【参考資料3】

○適期収穫と適切な乾燥調製

- ・令和4年産麦は、12月下旬から3月上旬まで平年より低めの気温で推移し、降雪量が多かったが、3月中旬以降の高温、多日照の影響により11月上生育は平年より早くなっている(出穂期:平年比6日早)。出穂後の気温は平年並、日最低気温は平年並みで経過しており、日照時間はやや多く登熟は順調である。
- ・品質を大きく左右する適期収穫が出来るかどうかが高品質麦生産の鍵を握るので、収穫適期の見極めと、適切な乾燥調製を徹底すること。

I 天気概況



1 現在までの気象状況

麦出穂後の4月から5月上旬の気象は、平年に比べて降水量がやや少なく(平年比 90%)、平均気温は平年並(平年比+0.4℃)、日最低気温は平年並み(平年比+0.3℃)、日照時間は多く(平年比 125%)経過した。

2 天気予報

中国地方 1 か月予報 (5月21日から6月20日までの天候見通し)

令和4年5月19日
広島地方气象台発表

<特に注意を要する事項>

なし。

<予想される向こう1か月の天候>

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

期間の前半は、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。期間の後半は、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。

向こう1か月の降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。日照時間は、平年並または少ない確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、平年並の確率50%です。2週目は、平年並または高い確率ともに40%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



<気温経過の各階級の確率(%)>



<予報の対象期間>

1か月 : 5月21日(土)～6月20日(月)
1週目 : 5月21日(土)～5月27日(金)
2週目 : 5月28日(土)～6月3日(金)
3～4週目 : 6月4日(土)～6月17日(金)

<次回発表予定等>

1か月予報: 毎週木曜日 14時30分 次回は5月26日
3か月予報: 5月24日(火) 14時

II 生育概況

1 二条大麦

○農業試験場

・農業試験場 11月14日播種「しゅんれい」の出穂期は4月14日で、播種時期が例年よりも遅く、生育進展が緩慢なため、過去5年平均と比較すると10日程度遅かった。穂揃い期の穂数は過去5年平均と比較してやや少なく、葉色はやや濃い。

○現地ほ場

・中部地区「しゅんれい」の出穂期は4月1日～4月3日頃、平年に比べ、草丈はやや低いが、穂数は平年並。一部で網斑病の発生が見られる。

2 小麦

- ・西部地区の小麦は11月6日～21日播種で、出穂期は4月12日～21日となっており、昨年より2～6日遅い。生育はおおむね順調である。
- ・一部のは場で「コムギ黄斑病」が確認された。発生は場では令和4年度病害虫発生予察指導情報(令和4年5月20日付)対象病害虫:コムギ黄斑病【参考資料2】を参考に対策を徹底する。

Ⅲ 技術対策

本県産麦の最重要課題は高品質化である。そのための最終作業である収穫・調製作業については、降雨等の気象情報に注意し、収穫作業が円滑に進むよう、事前にコンバインの整備やカラスノエンドウ等混入時の選別が難しい雑草の抜き取り等の準備を行っておく。

1 収穫

11月上旬播種の大麦収穫適期目安

令和4年5月19日現在

品種	産年	出穂期	出穂期～ 成熟期日数	出穂期～ 成熟期積算 気温	成熟期目安	収穫適期目安
		月日	日	℃	月日	月日
二条大麦 (しゅんれい)	過去10年平均	4月8日	45	763	5月23日	6月1日 ～ 6月3日
	令和4年産	4月2日	48		5月20日	5月29日 ～ 5月31日

注1) 令和4年産の成熟期は過去平均の登熟期間と出穂期～成熟期積算気温の過去平均から推定した。

注2) 積算気温は出穂期を起算日とし、5/17以降の平均気温は過去10年平均並および+0.5℃で算定した。

注3) 収穫適期目安は二条大麦は成熟期+9～11日

(1)刈取適期の判定

- ・収穫適期は、熟色がついて茎葉の青味がとれ、大部分(80%以上)の穂首が90度以上曲がった頃で、適期幅は3～5日と短いとされている。中部地区の実績から収穫適期は成熟期から9～11日後とする。【参考資料1参照】
- ・ビール麦は収穫時に損傷を受けると発芽勢が落ちて品質上問題となるので、子実が硬くなる穀粒水分25%以下の状態で刈り取りを行い、コンバイン扱胴回転数は機種所定の範囲(水稻より下げる)に設定する。

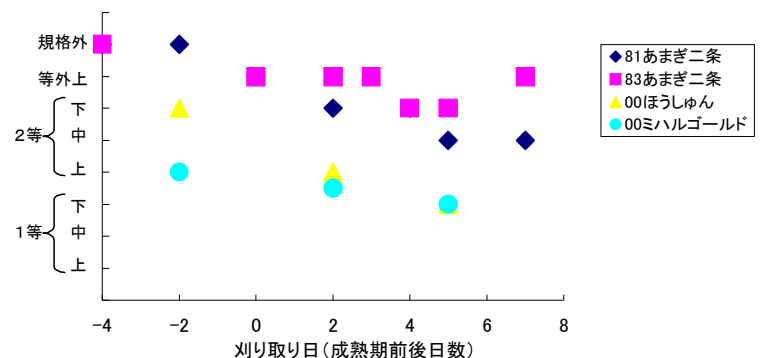


図 ビール麦刈り取り日と検査等級(福岡農総試)

(2)品質低下の防止

- ・刈取適期より早く収穫すると、子実の充実度不足や色浅未熟等により下位等級に格付けされやすくなる。
- ・凸腹粒は成熟期以降の降雨には影響しない。
- ・は場による成熟程度のばらつきがある場合、成熟期の異なるは場を同じ日に刈り取らない。
- ・倒伏の著しいは場・熟れむらのあるは場は、他と分けて収穫し、調製施設でも区分して荷受けし、不良品が混ざらないように注意する。

- ・好天が予想される場合は熟れの遅い部分に合わせて収穫する。ただし全体に遅穂が多いような生育の場合は、強勢穂を基準にして遅穂が登熟する前に収穫する。

2 収穫後、乾燥調製まで

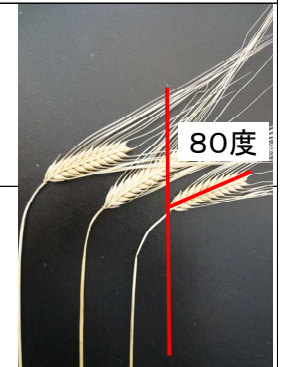
- ・高水分麦は貯蔵中に発芽障害を起こしやすいので、刈取後2時間以内には乾燥施設に張込み、乾燥開始までは常温通風する(ビール麦)。また、刈取当日に必ず乾燥作業を開始する。

【参考資料1】

ビール麦「しゅんれい」の刈取適期表(倉吉農業改良普及所作成)

平成27年産 倉吉農業改良普及所調査データ

		立毛状況	穂の状況	粒の状況	水分 (%)	備考
成熟期 (5/25)					24.9	・穂首は緑がほぼ抜ける ・穂首の曲がり0度 ・チリメンジワがよっていない粒がある
成熟期 2日後 (5/27)					19.3	・穂首は緑が抜ける ・穂首の曲がり20～30度 ・チリメンジワが少ない
(発芽勢低下) 刈取厳禁	成熟期 4日後 (5/29)				15.8	・穂首の曲がり20～45度 ・チリメンジワが確認できるが、爪で押すと爪跡が残る粒が多い
	成熟期 7日後 (6/1)				18.1 (2日前降雨あり)	・穂首の曲がり30～65度 ・穂首の曲がり具合にばらつきがある ・チリメンジワが増え、粒の大半が堅い ・ほ場全体を見ると芒がキラキラ見える
現地の 刈取時期	成熟期 9日後 (6/3)				19.9 (当日降雨あり)	・穂首の曲がり60～80度 ・穂首の傾きが概ね揃う ・チリメンジワは多く、粒は全てが堅い ・ほ場全体を見ると芒が目立ちにくくなる
	成熟期 11日後 (6/5)				19.7	・穂首の曲がり100度以上 ・チリメンジワは多く、粒は全てが堅い ・芒が概ね見えなくなり、穂首のアーチの頂点が見えるため、ほ場全体が茶色っぽく見える ・やや粒の光沢がなくなる



※調査ほ場 鳥取県倉吉市古川沢

※播種日 2014年11月15日、出穂期 2015年4月14日

※水分は5回計測後の平均値(株式会社ケット科学研究所 米麦水分計ライスタm)

※成熟期11日後の写真のみ諸事情により調査場所が異なる(ほ場は同じ)

【参考資料 2】

令和4年度病害虫発生予察指導情報

対象病害虫：コムギ黄斑病

令和4年5月20日
鳥取県病害虫防除所

1 情報の内容

県西部の一部の地域でコムギ黄斑病の発生が確認されている。発生時期や発病程度により、薬剤の効果は大きく変わるため、発生状況をよく確認し、防除を行う。また、本病は被害残渣が一次伝染源となるため、令和4年播きコムギにおいて、以下のとおり適切に対策を行う。特に多発生ほ場では対策を徹底する。

2 防除対策

(1) 被害残渣の適切な処理

- ・水稲との輪作もしくは夏期の代かき湛水を行う。
- ・可能であれば被害残渣をほ場外に持ち出し、処分する。
- ・収穫後に早めに被害残渣をすき込み、腐熟を促す。

(2) 薬剤散布

- ・ワークアップフロアブル等により赤かび病との同時防除を行う。
- ・融雪後から赤かび病防除時期までに下位葉に病斑が確認される場合は、上位進展前にチルト乳剤25等を散布する。

薬剤名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数
チルト乳剤25	1000倍	60～150L/10a	収穫3日前まで	3回以内
ワークアップフロアブル	2000倍	60～150L/10a	収穫7日前まで	3回以内
	500倍	25L/10a		

3 コムギ黄斑病の生態（参考）

- (1) 主に葉に発病する糸状菌病害である。一次伝染源は被害残渣であり、下位葉に発生したのちに上位進展する。
- (2) 発病初期は葉に黄褐色で楕円形の小型病斑が生じ、次第に拡大して灰褐色の大型病斑となり、葉が枯死する（写真1、2）。早期に上位葉に発生すると、収量および品質に影響を及ぼす。
- (3) コムギのみに発生する（オオムギには発生しない）。
- (4) 発病には品種間差がある。
- (5) 一般的に前作が水稲のほ場は、前作が畑作物のほ場やコムギ連作ほ場と比較して、発生が少ない。



【写真1 コムギ黄斑病の症状】



【写真2 コムギ黄斑病の病斑】

【参考資料 3】

○農作業事故防止を徹底しましょう！

3月1日～5月31日まで春の農作業安全運動期間です。

あつ、危ない！

トラクター、動力運搬車の重大事故多発



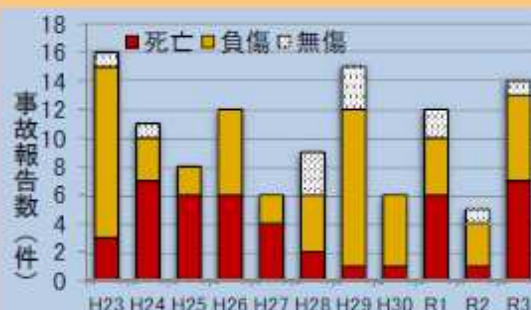
令和3年度に県内で発生した農作業中の重大事故(11月末現在)

負傷程度	使用機械	年齢	場所	事故の概要
死亡	動力運搬車	70代	田	ひかれ
	動力運搬車	70代	用水路	転落
	動力運搬車	90代	畑	ひかれ
	動力運搬車	80代	畑	ひかれ
	乗用型トラクター	80代	畑	ロータリーへ巻き込まれ
	スピードスプレーヤ	40代	果樹園	挟まれ(SSと製の枝)
重傷	—	80代	畑	熱中症
	乗用型トラクター	80代	田進入路	横転(急な登り坂を前進)
	乗用型トラクター	70代	田進入路	横転(急坂での操作ミス)

- ・動力運搬車でのひかれ事故が多い
- ・乗用トラクターでの横転事故が多い
- ・死亡事故は70歳代以上が大半

★ ヒヤリ・ハットは事故の予兆です。

★ 大切なものを失う前に安全な操作・作業方法を再確認しましょう。



県内の農作業事故報告数の推移

※県に報告のあったもの。(R3年度は11月末現在)

鳥取県農作業安全・農機具盗難防止協議会

事務局

鳥取県農林水産部経営支援課

電話0857-26-7327

JA鳥取県中央会農業くらし対策部

電話0857-21-2607

令和4年1月発行